

学ぼう・みがこう 消費者力

消費者力検定講座第4講報告

開催日：2013年1月23日（水）10：00～12：30

会場：東京都生協連会館 3階

参加人数：15名、講師1名・事務局他4名

主催：東京都生協連消費者行政連絡会

協賛：東京都消費者月間協賛事業



豊島 まき子氏

検定試験講評

東京都生協連の受験者は特に環境や食の分野で成績が良く、全体でも平均を上回り、とても好成績だった。

スケジュール

10：00	開会
10：05	消費者力検定試験講評 啓発手法を学ぶ・手法実践 まとめ
12：25	事務連絡・閉会
本日の講師 豊島 まき子氏 (財)日本消費者協会・消費生活コンサルタント	

消費者被害の状況～消費生活の情報

平成23年度の消費者相談の状況として、相談件数12万3,746件の3割が60歳以上からの相談。相談内容ではインターネット関連のトラブルが多く、なかでもスマートフォンに関するものが増加している。振り込み詐欺（特殊詐欺）はオレオレ詐欺、架空請求詐欺、融資保証金詐欺、還付金詐欺の総称であるが、これも増加傾向でオレオレ詐欺では自宅にとりにくる『受け取り型』になっている。

消費生活に関する情報の入手方法はさまざまであるが、特にインターネットでの情報収集には注意が必要。取りこんだ情報をどう分析して活かすかが大切である。

学んだことを活かすために

〈消費者市民社会〉がキーワードとなる。

『知る』ことで「知識」を「意識」にして「行動」へつなげ、〈消費者市民〉として発信していく。

啓発の重要性

私たちが求める「安全」で「安心」な暮らしのために、自助、公助、そして共助がある共生社会となる必要がある。



発声練習

消費者市民社会とは

消費者が、個々の消費者の特性及び消費生活の多様性を相互に尊重しつつ、自らの消費生活に関する行動が現在及び将来の世代に渡って内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼし得るものであること自覚して、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画する社会

(出典：消費者教育推進法より)

プレゼンテーション

伝えたい情報を相手に伝えること。共有すること。発声、目線の向け方、話す速度、間、くり返しの大切さ等意識して。表情は明るく笑顔で。アイコンタクトも効果的。

ロールプレイでは、オープニングで自己紹介と目的を話し、寸劇で被害例などを紹介し、クロージングでポイントを確認して対応策や相談先を提示する。一緒に体験交流できる特長がある。



実録電話を聞いて話し合い、発表

♥グループワーク・実践♥

- * 共生社会をイメージできる「ワタシのマップづくり」
- * 相手の話をわざと無視して聞く体験。無視される体験。
- * 声を出すためのリラックス体操、発声練習、目線の向け方。
- * 消費者被害の電話の実録を聞いて感想を出し合う。
- * 役割分担してロールプレイ。



役になりきって
ロールプレイ実践

まとめ

消費者教育は消費者の自立支援のために生涯を通じて、いろいろなステージが必要である。地域での見守りや声かけも大切で、それらは安心・安全に暮らせる社会がきてほしいという願いにつながっている。